

教育実習への取り組み（第二報）

— 保健体育編 —

川井 明・宮崎 光次・笠原 利英・阿久根英昭
清水 安夫・武田 一・田中 千晶

キーワード：教育実習、事前指導、訪問指導

1. はじめに

平成12年度の文学部健康心理学科健康科学コースの入学生から始まった保健体育科の教職課程も8年目をむかえる。改組に伴って本年度の健康心理学科健康科学コースの4年生が最後の教職課程となり、平成21年度からは、健康福祉学群健康科学専修の学生が中心に教職課程を履修することになる。その他、これまで言語コミュニケーション学科、総合文化学科、経済学部、経営政策学部にも所属する学生や、科目等履修生も僅かではあるが履修している。現在、教育実習〔以下、実習〕に関する全般の手続きや実習校との連絡等の業務は、教職センターで行っているが、保健体育科の教職課程に関する教科教育は、健康福祉学群健康科学専修〔以下、本専修〕で行われている。

保健体育科の実習は、平成15年度から38名の学生でスタートし、平成16年度には36名、平成17年度44名、平成18年度38名、平成19年度45名、そして平成20年度には55名の学生が行い、年々増加の傾向にある。（図1参照）この増加の傾向を踏まえて、本専修では、保健体育科教育法の複数クラスの開講や、授業時間の配置、新たな科目の新設などを協議しながら、保健体育科教員養成の組織的な指導・支援体制の整備と、実習への主体的な取り組みが進められていることは、「教育実習への取り組み－保健体育編－」¹⁾で紹介した。実習の一連の教育は、実習前の「事前指導」、実習中の「訪問指導」、実習後の「事後指導」が行われている。前回の「教育実習への取り組み－保健体育編－」では、事前指導の取り組みとして、「直前勉強会」や「個別指導」を中心に報告した。今回は、2007年度と2008年度に行われた「訪問指導」を中心に報告する。

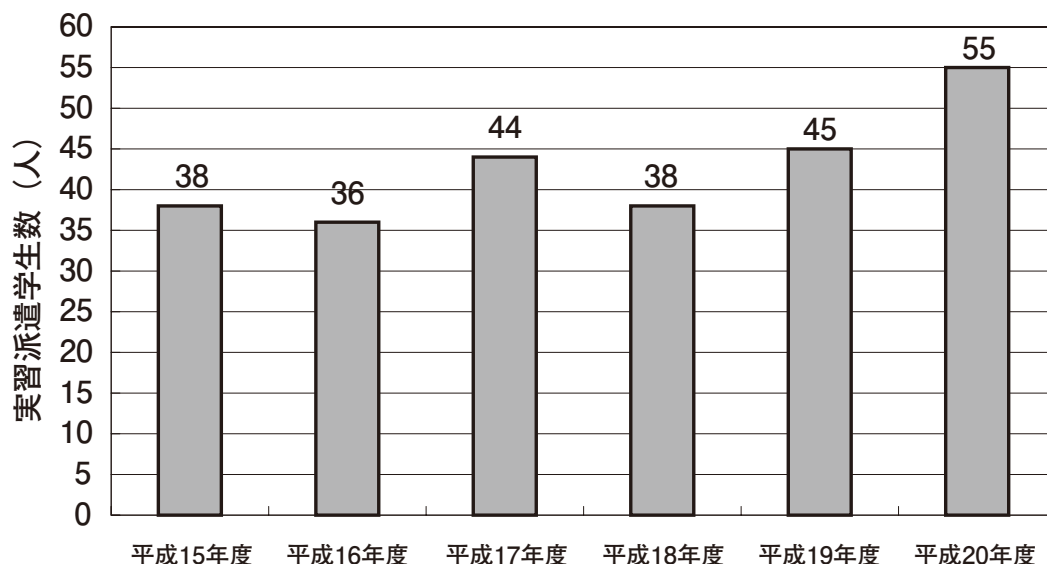


図1. 保健体育科教育実習の派遣学生数の年次推移

2. 訪問指導の実施状況

訪問指導では、実習校の校長や副校長、実習担当教諭、指導教諭等と訪問指導者が面談し、実習生の学習指導や生活指導、課外活動指導等の学校活動全般の取り組みの様子を伺う。また、研究授業を参観し、その後に研究授業を振り返りながらの指導を行うことが一般的である。訪問指導の役割は、実習生へのその場の指導だけではなく、実習校からの情報や意見交換などは、実習生の事後指導にも繋がる。更には、今後の大学における教員養成においても貴重な財産となり、実習校と大学が連携する重要な役割を持つ。

他大学では、すべての実習生を対象に訪問指導を行う例もあるが、本学においては、本学を基点とした50km圏内の実習校を対象に訪問指導が行われている。保健体育科では2007年度に45名の実習生に対して19名、2008年度には55名の実習生に対して39名の訪問指導が行われた。2年間でみると100名の実習生に対して、58名の実習生へ訪問指導を行っている。図2のように、現在は実習校が東京と神奈川に集中している傾向にあるため58%の訪問指導が行われているが、全国的に実習校が分散すれば、実施率が下がることが考えられる。本専修では、7名の専任教員で年間に一人当たり、平均で5回程度の訪問指導を実施している。

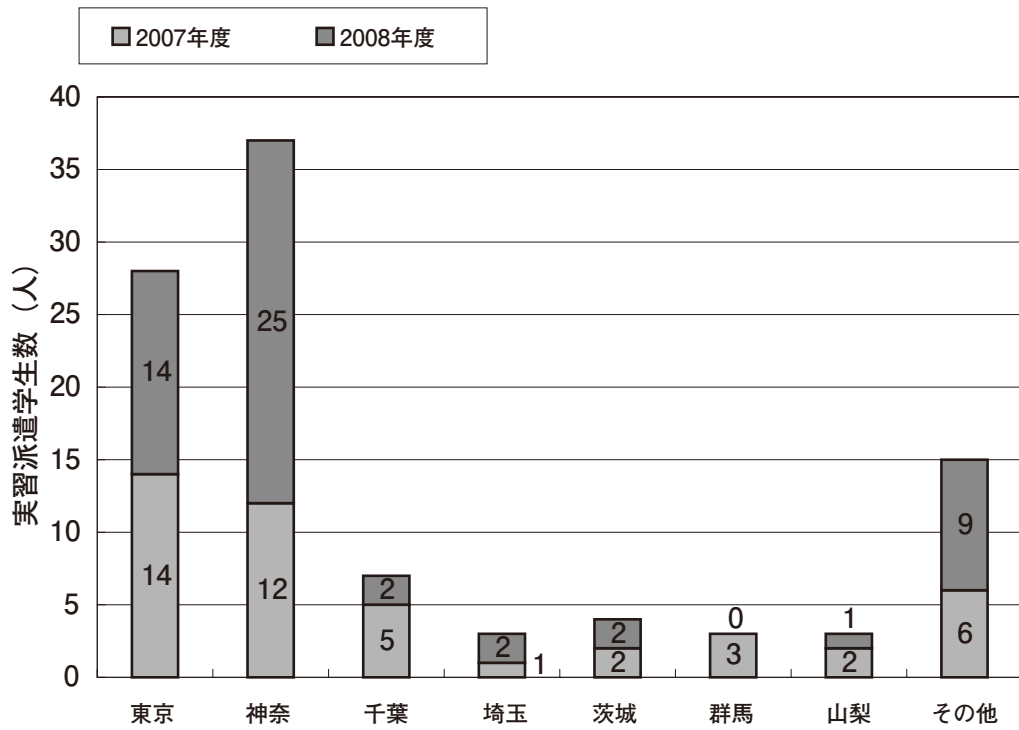


図2 2007年度・2008年度の実習生派遣地域

3. 教育実習訪問指導報告書

2007年度より、訪問指導を行った際には、「教育実習訪問指導報告書」〔以下、報告書〕（資料1・2参照）を作成し、専修内で蓄積することとした。これは実習生の活動や実習校からの意見を記録し、蓄積することで、今後の保健体育科教員を養成するうえでの指針にするためである。

実習校の授業予定や学校行事などと、訪問指導者の訪問可能な日時を調整することは容易ではないが、一般的に実習期間の後半に行われる研究授業に合わせて訪問することが常である。実習で身に付けた学習指導力の成果を発揮するのが研究授業であり、訪問指導を行うには最適である。研究授業で使用された学習指導案やプリントなどの副教材もまた、今後の教員養成に役立つことから、報告書と共に蓄積している。その蓄積した学習指導案は、健康福祉学群の実習支援センターで自由に閲覧させているが、最近では教職課程の学生が、学習指導案作成のトレーニングをするために、参考にしている姿をよく見かけるようになった。

資料1 教育実習訪問指導報告書(例)

実習生名	桜美林花子	所属	健康心理学科	学籍番号	20524 × × ×
実習校	〇〇〇〇高等学校		訪問日	2008年6月〇〇日(水)	
単元	2年G組、保健、単元名「壮年期と健康」				
(1) 学習指導に関すること ※良かった点や今後の課題など					
【良かった点】					
・ 非常に良く学習し、準備していた					
・ 教科書だけに囚われず、自身の体験、文献の引用など、良く準備してきたことがわかる					
・ 独自のプリントを用意し、まとめて利用したところも好感が持てる					
・ ストレス度テストを実施し、生徒の興味を良く引きつけていた。また、その解説も効果的であった					
・ 教室内を満遍なく見まわり、全ての生徒の状況を気にかけていたところは素晴らしい					
【今後の課題】					
・ 板書をもう少し工夫すると良い					
・ 授業の流れにアクセント(最も伝えたいところ)をつけるとさらに良くなると思う					
・ ノンバーバルコミュニケーションについて理解を深め、上手く活用して欲しい					
(2) 実習校からのアドバイス ※その他、生徒指導や課外活動など実習全般に関して					
・ 非常に良く勉強してきている。特に保健分野の知識は豊富である(教科担当教諭)					
・ 集団行動についてももう少し学習してきて欲しい。特に集合解散、ラジオ体操などは必須と考える (教科担当教諭)					
・ 現在のところ、大学に報告、お願いするような事項はない(副校長)					
・ 毎年、保健体育の教育実習生が増えているので、母校であっても受け入れが困難になっている					
(3) その他					
・ 教員を目指している生徒から、「先生のようにになりたい」と聞き、感激したとのこと					
・ 非常に有意義な時間を過ごしているとのこと					
訪問指導担当者名				〇〇 〇〇	

※研究授業の学習指導案や教材プリントもご提出頂ければ幸いです。

資料2

教育実習訪問指導報告書（例）

実習生名	桜美林太郎	所属	健康心理学科	学籍番号	20524 × × ×
実習校	〇〇〇〇〇中学校		訪問日	2008年5月 × × 日(金)	
単元	体育祭応援練習				
(1) 学習指導に関すること ※良かった点や今後の課題など					
【体育祭応援練習】					
3学年(各学年1クラス)が一緒になり、色別(ピンク組)の応援練習を行っていた					
【良かった点】					
・全体を見回り、集中力が欠けた生徒には声を欠けていた					
・スピーチは分かりやすく、生徒の士気を高めていた					
・生徒と良い距離感で接していた					
・実習生の先頭に立ち行動していた(掃除を自ら進んで行っていた)					
【期待したい点】					
・実技授業および保健授業を見ることが出来なかったが、しっかりと準備をして臨んで欲しい					
(2) 実習校からのアドバイス ※その他、生徒指導や課外活動など実習全般に関して					
・非常に積極的に実習に取り組んでいる。現在のまでのところは申し分ない(教科担当教諭)					
・是非、〇〇市の教員になって欲しい(校長)					
(3) その他					
・心身ともに健康であった					
・自然教室、体育祭など通常ではできないことを経験できるのが有難いと思う					
・実習前から剣道の指導で訪れていたこと、母校であり知っている先生が多くいたことなど、非常に					
すんなりと環境に馴染むことが出来、良い時間を過ごしていると思う					
訪問指導担当者名				〇〇 〇〇	

※研究授業の学習指導案や教材プリントもご提出頂ければ幸いです。

4. 考察

報告書には「(1) 学習指導に関すること ※良かった点や今後に期待したい点など」、
「(2) 実習校からのアドバイス ※その他、生徒指導や課外活動など実習全般に関して」、
「(3) その他」の3項目が設けられている。(資料1・2参照)

(1) は、訪問指導者が研究授業を参観した所見が記述される。(2) は、実習校からの実習活動全般におけるアドバイスなどが記述される。(3) は、(1) と (2) 以外に当てはまるものが自由に記述される。

今回は、2007年度と2008年度の報告書における(1)と(2)の項目に記述されたすべてを書き出して、KJ法を用いて分類しカテゴリーを抽出して考察した。

カテゴリーについては、教材研究や指導案作成、教材や体育用具の準備、授業デザインなどの、授業実施以前のマネジメント能力に関するもので、「事前に～」「予め～」「～を準備している」「～を用意している」「～を知っている」などの表現が使われている記述を「授業運営能力」とした。また、授業中の分かり易い質問や助言、指示、説明などの、実践能力に関するもので「～ができる」などの表現が使われている記述を「授業実践能力」とした。そして、怪我や体調不良などに対する予知や事故を対処するための能力に関する記述を「安全管理能力」とする。更には生徒への冷静な対応、信頼関係の構築等、教師として心得ておくべきことに関する記述を「教師の心得」として、凡そ4つのカテゴリーを抽出した。

そして、表1のように、各カテゴリーの記述を訪問指導者の所見と実習校からのアドバイスを二分し、保健と体育の分野ごとに「良い点」と「今後の課題」に分類した。

表1 報告書内容の分類

評価	学習指導に関する訪問指導者の記述		学習指導に関する実習校からのアドバイス	
	分野	n	《 具 体 例 》	《 具 体 例 》
良い点	保健	15	・教科書以外にも文献や新聞を準備していた。 ・学習カードの利用が効果的であった。	・独自にプリントを作成し理解し易くしていた。 ・新聞などから身近な話題として内容を理解させていた。
良い点	体育	11	・試合に独自のルールを設け、短時間に運動量を得た。	・グループ分けを予め行い、スムーズな授業展開である。
課題	保健	26	・教科書の解説をするだけの一方通行の授業であった。 ・多くのことを取り入れて、消化不良である。	・教材研究が不十分で内容の理解が出来ていない。 ・指導案の作成ができない。
	体育	7	・バレーボールのネットを張ることが出来ない。 ・バスケットボールの得点板の操作を理解していない。	・競技規則を理解していない。 ・基礎的な動きは師範出来るようにして欲しい。
良い点	保健	7	・板書が丁寧であり工夫されていた。	・生徒を巻き込んで飽きの来ない参加型授業であった。
良い点	体育	17	・教室を巡回しながらクラスを掌握していた。 ・説明する際には生徒を座らせて指示をしていた。 ・大きな声ではっきりと話が出来ていた。	・全体と個人にバランスよく発問していた。 ・運動部員を上手に活かしていた。 ・指導の目的を達成できていた。
課題	保健	8	・板書に誤字・脱字が多い。 ・声が小さく全体的に聞きづらい。	・決まった生徒にしかならない。 ・同じ内容の授業でも板書が異なっていた。
	体育	8	・笛をうまく使用できていない。 ・生徒と一緒に動いてほしい。	・指示した後に生徒の動きを見ずに評価しない。 ・黙っていた後の時間が長い。
良い点	保健	2	・教室内の換気や空調まで気を配っていた。 ・授業前に教室内の清掃状況を確認し机を整理した。	・なし。 ・なし。
良い点	体育	4	・授業前後に体調の確認をしっかり行っていた。 ・準備運動を入念に行い怪我の防止に努めていた。	・準備体操を入念に行っていた。 ・生徒に運動強度を確認しながら行っていた。
課題	保健	2	・自分の悪い生徒にしばらく気付かなかった。 ・教室から勝手に退室した生徒に気付かなかった。	・なし。 ・なし。
	体育	12	・視野が狭く全体へ目を配らず一箇所に固まりすぎ。 ・ボールが数個転がっており危険である。	・だらしない体操を着用している生徒に指導しない。 ・授業前後に体調の確認を行ったほうが良い。
良い点	保健	3	・授業内容から生徒に今後の生活習慣の改善を促した。 ・制服の乱れを正し忘れ物がなかったか確認していた。	・教壇上で姿勢が良い。 ・授業中に生徒の生徒の名前を全て覚えていた。
良い点	体育	11	・授業前後の挨拶をしっかり意識していた。 ・次の授業へ遅れないように指示していた。	・早く教場へ移動して生徒をむかえていた。 ・運動が苦手な生徒に一生懸命に指導していた。
課題	保健	4	・活気がある授業とふざけた授業を履き違えている。 ・寝ている生徒を指導していない。	・生徒質問を聞き流していた。 ・授業中の言葉遣いが雑である。
	体育	7	・授業中の言葉遣いが雑である。 ・授業後ボールが落ちていた。	・運動の苦手な大人しい生徒へ配慮が欲しい。 ・生徒は授業料を払っているのだから本気の学生を派遣願う。
その他		15	・非常に熱心な指導教諭に恵まれている。 ・教育実習校訪問連絡網を提出せずに実習を行っていた。	・事前で大学で指導案は作成できるよりにして欲しい。
n: 記述数		159		106

カテゴリー

授業運営能力

教材研究、指導案作成、教材や体育用具の準備、授業デザインなどの、主として授業実施以前のマネジメント能力

授業実践能力

授業中の分かり易い質問や助言、指示、説明等、主として授業中の実践能力

安全管理能力

怪我や体調不良などに対する予知や事故を対処するための能力

教師の心得

生徒への冷静な対応、信頼関係の構築等、教師として心得ておくべきこと

その他

n: 記述数

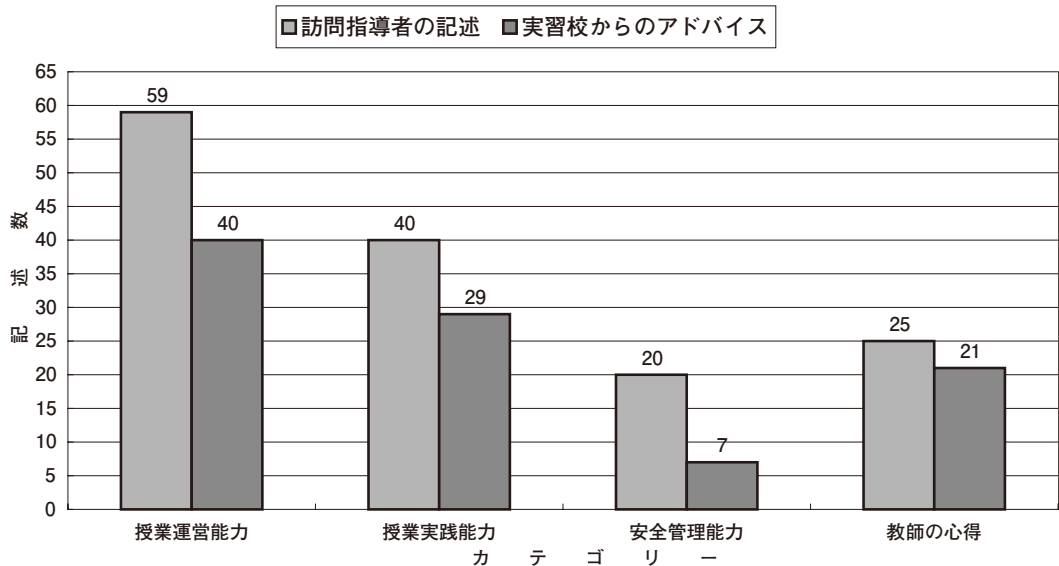


図3 カテゴリーの比較



写真1 研究授業風景

5. まとめと今後の課題

2007年度と2008年度に行われた訪問指導の報告書をKJ法により分類し、4つのカテゴリーを抽出した。図3のようにカテゴリーごとに記述数を比較すると、訪問指導者と実習校側ともに「授業運営能力」に関する記述が多く、「授業実践能力」、「教師の心得」、「安全管理能力」の順に続いている。実習生の学習指導における「授業運営能力」については、訪問指導者と実習校側ともに着目していることが窺える。特に、表1のように訪問指導者の記述や実習校からのアドバイスにおいても、「授業運営能力」における保健分野の「今後の課題」が顕著である。具体例にも、「教材研究が不十分で内容の理解が出来ていない。」や、「指導案の作成ができない。」、「教科書の解説をするだけの一方通行の授業であった。」とあるように、保健分野の授業実施以前のマネジメント能力に課題が残ることが明らかにされた。保健分野の学習指導については、十分な授業運営能力が必要であり、実習中に身に付けるものではない。これまでも実習前に、学生から保健分野に不安がある旨を聞いている。今後はこれまで以上に保健分野の授業運営能力向上を目指していかなければならない。

参考文献

1. 川井 明、武田一著（2007）「教育実習への取り組み—保健体育編—」2007年度 Obirin Today
—教育の現場から